岩見沢市

緑の相談コーナーだより

NO．332　2013．2　．1発行

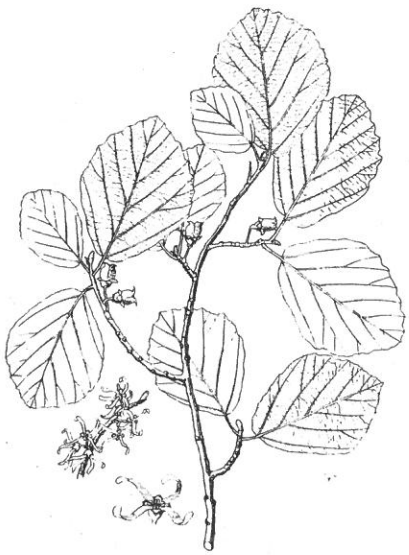
岩見沢市志文町794番地

いわみざわ室内公園「色彩館」

身近な樹木“マンサク”（金縷梅）
～早春・万花にさきがけて花咲く樹～

マンサク科のマンサクは北海道南部から本州（太平洋側）、四国・九州の冷温帯に広く分布する落葉小高木で、ふつう２～３ｍですが、大きいものは、樹高８ｍ、胸高直径 20 ㎝くらいになります。観賞用として庭に植えられることも多く、とくに農家などでは、「満作」の名前から、また、花弁が縮れて神秘的な趣があることから、豊作や繁栄を祈る木として、好んで植えられてきました。日本固有の樹木でもあり、早春２月頃から、葉にさきがけて、ねじれた細い紐状の、まるでイソギンチャクのような黄色い四弁花を枝にびっしりと咲かせます。果実は 10 月頃成熟し、卵形の外面に短い毛が生えています。一般のマンサクは黄花ですが、より黄色の濃いキマンサクやコガネマンサク、花弁が紅色になるアカバナマンサク、さらに、花弁の基部が紅紫色で先端が黄色のニシキマンサクなどがあります。近年は、外国産のマンサク類も多く輸入されており、葉裏に密毛があって花弁が大きく、鮮やかな黄色のシナマンサクやアメリカマンサクなども見かけるようになってきました。

マンサクの名の由来ですが、春、まだ雪の残っている山中に一番に咲く花であることから、「まず咲く」から名づけられたといわれます。しかし、この木の花が、枝を覆うようにびっしりと咲くことから、「豊年満作」の満作の意であるとする説もあります。
一方で、細くねじれた花びらが十分に実らない米に似ているところから、これを嫌い、あえて反対語の「満作」と呼ぶようになったとする説があります。別名・異名としては、新潟や長野では「ししはらい」、福井・滋賀では「つむら」、岐阜では「ねそ」ともいわれます。



Hamamelis japonica SIEB. et ZUCC.
マンサク

材の用途と効用についてですが、堅硬で強靭な材の性質を活かし、筏を組むねじ木などに使われ、樹皮も強靭なことから皮付

きの枝条を土木工事用や粗朶・薪の結束に用いました。また、葉はタンニンを含むことから、止血薬として用います。最近では、春いち早く黄色の明るい花をつけるので切り花とされ、また、茶花や生花としてもよく使われます。造園では野趣に富んだ庭園花木として、築山や庭石の添え木、生け垣や池畔樹として用いられます。

増殖は実生により苗を育て、３～４年で定植します。種子は、果実が裂開する寸前に樹から採取し、ひなたで干すと裂けて中から種子がはじき出されます。種子は乾燥を嫌うので、すぐにポリエチレンの袋に入れ、冷暗所で保存します。このように採種後すぐに低温湿層処理をすると幾分１年目の発芽が多くなりますが、それでも２年目の春に発芽するものがほとんどです。

まんさくや町よりつづく雪の峰　　相馬遷子

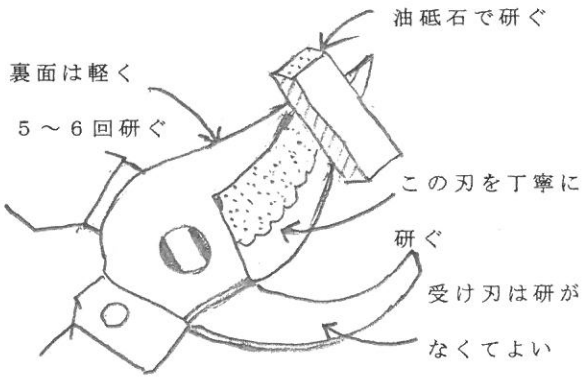
まんさくに水激しくて村静か　　飯田龍太

公園だより

バラ園

今年の道内は、割合おだやかだった元日前後から、うって変わって大雪と吹雪に見舞われた仕事始めであったように思われます。特に岩見沢市は、昨年を上回る連日の降雪で交通障害や除排雪に追われる日が続いてしまいましたね。道内の他地域も豪雪に悩まされているようですが、空知管内は特に平年の２倍の降雪量といったところでしょうか？今月のバラ園は、あつい雪の布団をかぶり、ゆっくり休んで、春の目覚めを迎えることができるのではと期待されます。この後は、７月のバラサミットに向け、おだやかな天候が続き、バラ達の無事な目覚めをを祈りたいものです。

♥**今月のバラ園からの一口メモ**は、剪定バサミの手入れについてです。雪解けとともに、北海道では一斉にバラの手入れが始まります。冬剪定のできない本道では、この時期に本剪定を行うことになります。春に備えて今から剪定鋏の手入れをしておきましょう。刃についた、ヤニなどもベンジンでぬぐい、ネジの部分にオイルをさしてやりましょう。



室内公園色彩館は、お正月から新装リニューアルオープンとなっております。外は大雪で一面の銀世界ですが、ここでは緑の芝生がまぶしく、ツバキの花も咲いて、一足早い春を味わって頂けると思います。

南国温室では、ストレリチア（極楽鳥花）やアナナスなど、南国の花々が咲いて屋外とは別世界の南国情緒を楽しんで頂くことができます。

相　談　日　記

問　昨年の春のことです。庭に植えた樹木が、春になってもあまり生育しないと思っていたら、株ごと枯れてしまいました。樹幹や樹皮をよく見てみると幹に裂け目ができ、樹皮が割れて剥がれてきたりしています。これらの原因として考えられることは何でしょうか？また、治療法などがあれば知りたいのですが！

答　昨年の冬は随分寒さが厳しい年だったように思われます。それで考えられるのは、冬の寒さによる凍害か、かいよう病による被害が疑われます。幹や枝を指で押してみて、樹皮がプカプカしてなかに空間があるようなら、寒さや乾燥による凍害です。冬になって気温が下がると、樹皮の水分が凍って膨張し、樹皮が裂けたりします。しかし、凍害による被害は目で見るだけでは分からない場合が多く、春になっても生育せずに枯れてしまい、初めて気づくことが多いのです。また、幹や枝が裂けて赤い樹液が出ている場合は、かいよう病の発生が疑われます。この病気はウメやカンキツ類に発生しやすく、細菌による斑点性の病気ですが、成木では果実の被害が大きく、若木に発生すると幹や枝に被害が出やすいのです。発生すると、春に萌芽前の幹や枝から赤い樹液を出し、その先の枝は芽が出ず枯れてしまいます。

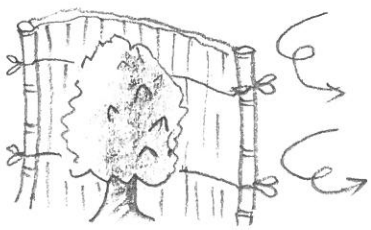
治療と予防のポイント　凍害が発生した樹木は、コンテナ栽培の場合は、室内や軒下など冷たい風の当たらない所に移しましょう。露地栽培では、市販されている幹巻テープやワラなどを巻き、被害の拡大を防ぐようにします。防寒にビニールを使うケースが見られますが、日中は高温で蒸れ、夜間は逆に低温で中の水分が凍結するなど、温度差が極端になるので避けるようにしましょう。

かいよう病の場合は、発生した枝は、全て切り取り、ストレプトマイシン剤を樹木全体に散布します。あまりにも被害が大きい場合には、株ごと焼却処分するしかありません。なお、この病気は軟弱な枝に発生しやすいので、感染しやすい秋になって若枝に発生しないように、剪定や肥料管理を適切にします。発芽前の早春頃から、薬剤で感染予防するのも効果的です。

凍害を予防するには、厳寒期での水やりを控えるようにし、寒さに弱い種類の樹木はヨシズや寒冷紗などで防寒対策を行ないましょう。

ワラを巻く

寒冷紗をかける



ヨシズで寒風を防ぐ

実が裂けると、純白のふっくらした綿毛が～ワタ　花言葉　私を包んで

ワタは、アオイ科ワタ（ゴッシビウム）属の非耐寒性の多年草・低木ですが、園芸上は一年草として扱われます。別名コットンと呼ばれ、純白の綿毛は木綿の原料となるセルロースです。熱帯アジアの原産で、ハイビスカスやタチアオイと同じアオイ科の植物なので、花も美しく、黄色い花弁をつけます。熱帯性なので種子まきが遅すぎると開花も遅れ、屋外では結実しないこともあります。北海道では寒い時期は室内で管理する方が無難です。種まきは、気温が高くなったら暖かい場所を選んで早めに播きます。このとき、種子についた綿毛は取り除き、外皮に少し傷をつけると発芽がよくなります。高温と乾燥、やせ気味の土地を好み、酸性の土壌は嫌います。開花期には雨に当てないように軒下などに移動します。蕾が落ちたり、徒長や病気の原因になるので、多肥は禁物です。日本には799年に、三河国に漂着した南方の人により伝えられ、15世紀中頃から栽培が盛んになり、全国に広がりましたが、戦後は衰退し、現在では園芸の世界で見るのみとなりました。

２～３月の園芸講座・行事案内

市民園芸講座の内容紹介

♣土壌と肥料管理のポイント

日時　２月　21日（木）　１３：００～１５：００

講師　農業改良普及センター　普及指導員　さん　定員　４０人　参加料　無料

✂いわみざわ「第４回・洋ラン展」

日時　２月　21日（木）９：００～24日（日）１５：００

場所　室内公園「色彩館」ロビー　　主催　いわみざわ洋ラン愛好会

♣洋ラン栽培の楽しみ方

日時　２月　24日（日）　１３：００～１５：００

講師　北海道蘭友会理事　阿部　春樹　さん　定員　４０人　参加料　無料

♣家庭果樹の楽しい管理

日時　３月　10日（日）　１３：００～１５：００

講師　中央農業試験場　　内田　哲嗣　さん　定員　４０人　参加料　無料

編集・発行　北海道グリーンランド（空知リゾートシティ株式会社）

お問い合わせは　室内公園「色彩館」緑の相談コーナー　25－6111 まで